

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（論文掲載版）

報告日	2021年12月26日
氏名	北岡 敬悟
指導教員名	太田 進
掲載内容	<input checked="" type="checkbox"/> 研究論文採択 <input type="checkbox"/> 総説論文掲載 <input type="checkbox"/> その他紀要など) ※いずれかにチェック
論文採択・掲載日	2021年7月21日
論文掲載雑誌名 巻・号・年	理学療法科学 第36巻 第6号 2021年
doi	
タイトル	心臓リハビリテーション対象者における膝関節痛が運動機能および QOL に与える影響
発表者名（全員記載）	北岡 敬悟, 太田 進, 野中 利通, 加田 賢治 ※筆頭著者は一番前に記入し, 自分に下線
要旨 (250字程度)	<p>【目的】 心臓リハビリテーション（心リハ）対象者における膝関節痛が心リハによる運動耐容能を含む運動機能および QOL に与える影響を調査した。</p> <p>【対象と方法】 外来心リハ患者 23 名とし BMI, 膝伸展筋力, AT, Peak VO₂, VE/VCO₂ slope, 膝関節痛の VAS, JKOM, SF-8 (total, PCS, MCS) を心リハの開始時・終了時に評価し, control 群と knee pain 群における介入前後の差の比較を行った。</p> <p>【結果】 control 群において JKOM, AT, Peak VO₂, VE/VCO₂ slope, SF-8 (total, PCS) が有意な改善を認められたが, knee pain 群においては心リハによりそれらの項目の有意な改善を認めなかった。</p> <p>【結語】 膝関節痛が心リハにおける運動耐容能, QOL の改善を阻害していることが示唆された。</p>

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（学会発表）

報告日	2021年10月10日
氏名	村上慈葉
指導教員名	太田進
掲載内容	<input checked="" type="checkbox"/> 学会研究発表 <input type="checkbox"/> 講演講師 <input type="checkbox"/> その他 ※いずれかにチェック
学会等開催日	2021年9月11日～2021年9月12日
学会等名称	第9回日本運動器理学療法学会学術大会
学会等開催場所	Web開催
国名, 都市名, 会場名	
研究・講演タイトル	変形性膝関節症に対する腹部引き込み歩行の膝関節機能および胸椎後弯に対する介入効果
発表者名 (全員記載)	村上慈葉, 太田進, 鈴木淳, 鈴木隆史, 川崎慎二
研究概要 (150字程度)	<p>変形性膝関節症症例に対し, 1日20分のDraw-in maneuver (DI) 歩行を6週間行い, 膝機能および胸椎後弯角度への効果を検証した.</p> <p>結果は, 介入前後で膝機能に有意な変化は認められなかった. 通常姿勢での胸椎後弯角度は, 6週間介入前後で有意差は認めなかった. また, 胸椎後弯角度の即時効果として通常姿勢とDI姿勢は, ベースラインでは有意差はなかったが, 6週間介入後では有意に減少した.</p>
感想その他 アピール欄 (100字程度)	<p>Web開催, ポスター形式での発表だったが, 研究成果を報告でき良かった.</p> <p>今回の発表では, 症例数が少なかったため, 今後介入研究を継続して症例数を増やし再検討をしていきたい.</p>
写真添付欄	
2枚以内	

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（学会発表）

報告日	2021年9月6日
氏名	石黒 博也
指導教員名	江西 一成, 林 久恵
掲載内容（ <input checked="" type="checkbox"/> 学会研究発表 <input type="checkbox"/> 講演講師 <input type="checkbox"/> その他）	
学会等開催日：	2021年8月27日～2021年8月27日
学会等名称：	第7回日本糖尿病理学療法学会 症例報告学術集会・学術大会 合同大会
学会等開催場所：	Web 開催
研究・講演タイトル：	小型端末を用いた運動支援による肥満糖尿病患者の活動量の変化 第2報
発表者名（全員記載）：	石黒 博也, 林 久恵, 江西 一成, 神谷 実希, 水野 裕子, 丹羽 靖浩, 野尻 奈穂, 高橋 ゆい, 足立 浩一
研究概要 (150字程度)	小型端末を使用した運動支援が入院中の肥満2型糖尿病患者の運動習慣及び減量に及ぼす影響を検証することを目的とした。介入の結果、運動遵守率と行動変容ステージは小型端末使用群の方が有意に高かった。小型端末を使用した運動支援は行動変容ステージ・運動遵守率の向上に寄与することが明らかとなった。
感想その他 アピール欄 (100字程度)	糖尿病や慢性腎不全の重症化予防がメインテーマとなっており、様々な視点からの質問や意見を頂くことができた。
写真添付欄 2枚以内	

星城大学大学院健康支援学研究所 研究成果報告書（論文掲載版）

報告日	2021年2月26日				
氏名	森 優太			指導教員名	竹田 徳則
掲載内容	<input checked="" type="checkbox"/> 研究論文採択 <input type="checkbox"/> 総説論文掲載 <input type="checkbox"/> その他紀要など				
論文採択・掲載日：	2021	年	2	月	19 日
論文掲載雑誌名 巻・号・年	日本サルコペニア・フレイル学会雑誌（印刷中）				
doi					
タイトル：	通いの場への理学療法士の関与有無別による身体的プレフレイルと健康関連指標の変化 —1年間の非ランダム化比較試験—				
発表者名	森 優太, 竹田 徳則				
要旨	<p>【目的】 通いの場への理学療法士の関与有無別による身体的プレフレイルと健康関連指標の変化を明らかにした.</p> <p>【方法】 通いの場 12 箇所へ参加の身体的プレフレイル高齢者で, 理学療法士の関与群 34 名と非関与群 29 名に対して, 関与群には 1 回/月・90 分・12 ヶ月間の期間, 集団体操や健康講話などの健康行動を促した.</p> <p>【結果】 1 年後の身体的プレフレイルから健常への移行率は, 関与群で 48.3%, 非関与群が 34.5%であった. また, 関与群では老研式手段的自立, CS-30, 5m 快適歩行速度, 5m 最速歩行速度で有意な改善を認めた.</p> <p>【結論】 通いの場への理学療法士による月 1 回の集団体操や健康講話を用いた支援によって, 身体的プレフレイルからの改善の可能性が示唆された.</p>				

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書（論文掲載版）

報告日	2021年2月26日
氏名	佐藤 英人
指導教員名	竹田 徳則
掲載内容	<input checked="" type="checkbox"/> 研究論文採択 <input type="checkbox"/> 総説論文掲載 <input type="checkbox"/> その他紀要など
論文採択・掲載日	2021年2月15日
論文掲載雑誌名	作業療法（印刷中）
巻・号・年	
doi	
タイトル	回復期リハビリテーション病棟認知症併存患者における行動・心理症状の実態と変化
発表者名（全員記載）	佐藤 英人, 竹田 徳則
要旨	<p>【目的】 回復期リハ病棟における疾患別にBPSDの経過を把握し、入院中の作業療法において介入を考慮すべきBPSDの下位症状と時期を予測した。</p> <p>【方法】 脳血管疾患183名・運動器疾患82名の認知症患者を対象に、NPI-NH合計点・下位症状得点それぞれを用い、有症率・重症度を入院・1ヶ月・退院時点の経過を統計学的に分析した。</p> <p>【結果】 脳血管疾患の入院時BPSD有症率は44.0%で、入院中に有症率と重症度は有意に改善したが、下位症状別では一部悪化を認めた。運動器疾患では入院時29%に認め、入院中有意な変化を認めなかった。</p> <p>【結論】 2疾患の入院時BPSD割合と経過の差異を念頭に置き、BPSD軽減に向けた作業療法プログラム立案の必要性が示唆された。</p>

星城大学大学院健康支援学研究科 研究成果報告書

報告日	2020年10月12日
氏名	塚田 晋太郎
指導教員名	江西 一成, 越智 亮
掲載内容 (<input checked="" type="checkbox"/> 研究論文採択 <input type="checkbox"/> 総説論文掲載 <input type="checkbox"/> その他紀要など)	
論文採択・掲載日:	2020年10月12日
論文掲載雑誌名 巻・号・年	日本基礎理学療法学雑誌 23 卷 88-96 ページ・2021 年
doi	
タイトル:	脳卒中片麻痺患者の歩行解析における二次元動作解析システムを用いた膝関節角度計測の信頼性と妥当性
発表者名 (全員記載):	塚田 晋太郎, 越智 亮, 細井 雄一郎, 牧邨 実優, 今井 一希, 江西 一成
要旨 (250 字程度)	<p>【目的】 脳卒中片麻痺患者の歩行動作における膝関節角度を二次元動作解析 (以下, 2DMA) と三次元動作解析 (以下, 3DMA) で計測し, 両システムの日間信頼性, 3DMA に対する 2DMA の基準関連妥当性について検討した.</p> <p>【方法】 脳卒中片麻痺患者 13 名を対象とし, 歩行時の膝関節角度および下肢回旋角度を 2DMA および 3DMA で計測した.</p> <p>【結果】 日間信頼性は両システムともに高かった. 3DMA に対する 2DMA の妥当性では加算誤差を認めたが, 両システム間の波形類似性は高かった.</p> <p>【結論】 脳卒中片麻痺患者の歩行中の膝関節角度の動作解析において, 2DMA は臨床で有用な評価ツールになり得ることが示唆された.</p>